B09 野外で採集した双翅目昆虫からの病原性細菌の分離と同定武間亮香^{○1}・丸高ゆう子²・亀井正治¹・前田拓也²・高麗寛紀²(¹アース・バイオケミカル (株)、²徳島大学・工)

Isolation and identification of pathogenic bacteria from wild-living Diptera

Buma R., Marutaka Y., Kamei M., Maeda T. and Kourai H.

1996 年佐賀県で患者発生施設周辺のイエバエから、また昨年徳島県で野外で採集されたイエバエの糞便から *E.coli* O157:H7 が分離された。本研究では、これらを踏まえ病原微生物のイエバエによる伝播を実証的に見定めることを主な目的とした。

野外で採集したイエバエ個体より *E.coli* O157:H7 を分離したことから、活動範囲からもイエバエによる媒介の可能性が示唆された。さらに、昨年のイエバエ糞便からの分離結果とともに、イエバエが摂取した *E.coli* O157:H7 は口器等でも増殖し腸管内から速やかに排泄されるという説も支持された。また、他の病原性細菌も分離し、薬剤感受性試験の結果、耐性化している菌が多く、多剤耐性を有する菌株の出現も認めた。以上の結果から、種々病原性細菌が昆虫により媒介され、広範囲に伝播し得るということが明らかになった。

B10 北海道におけるダニ媒介性脳炎に関する疫学的研究 ―野ネズミにおける T B E ウイルスの感染動態の検討―高橋健一[○]・伊東拓也・吉澄志磨 (北海道衛研)・竹田 努 (北大・地環研)・高島郁夫 (北大・獣医・公衆衛生)

Epidemiological study on tick-borne encephalitis in Hokkaido - Analysis on transmission pattern of TBE virus among field rodents -

Takahashi K., Ito T., Yosizumi S., Takeda T. and Takashima I.

北海道でイヌから分離された T B E ウイルスを用いて、道南地方で捕獲した野ネズミ血清中の抗体保有状況について検討を行ってきた。これまでの調査で、道南地方では患者発生地区以外でも抗体陽性例のあることが明らかとなってきた。抗体陽性個体は、春、夏、秋の調査のいずれの時期にも得られているが、夏に少なく秋には増加する傾向が認められる。そこで、野ネズミの捕獲時期や齢をもとに、抗体保有の有無、P C R によるウイルスの保有状況から、野ネズミの感染時期について検討を行ったので報告する。